

2-2・仕訳の方法

仕訳を行う際に考えるべきことは、その取引において何が増減し同時に何が発生したのか、二面的に捕らえることである。

借方と貸方

取引を仕訳する際に、これらを大きく分類すると5つの要素に分けることができる。これら5つはそれぞれのポジションである。

借 方	貸 方	
(資 産)	(負 債)	← 貸借対照表のポジション
	(資 本)	
(費 用)	(収 益)	← 損益計算書のポジション

また資産・負債・資本はそれぞれ増加・減少する場合があります、収益・費用はそれぞれ発生する場合があります。これを分解すると8つの要素に分けることができます。

借方に仕訳されるもの	貸方の仕訳されるもの	
資産の増加	資産の減少	費用・収益については『発生』という概念が用いられるため、資産・負債・資本のように『増減』するという考え方はしないことに注意する。 
負債の減少	負債の増加	
資本の減少	資本の増加	
費用の発生	収益の発生	

勘定科目

借方と貸方に大きく分類された『資産』から『収益』までの5つの要素は、さらに細分化されて具体的に『勘定科目』と呼ばれる項目で処理される。

資産	負債	資本	費用	収益	内 訳	借 方	貸 方
現金	支払手形	資本金	仕入	売上	資産	+	-
預金	買掛金		給料	受取利息	負債	-	+
受取手形	借入金		水道光熱費	受取手数料	資本	-	+
売掛金	預り金		交通費		費用	+	
有価証券	未払金		福利厚生費		収益		+
商品			交際費				
建物			修繕費				
土地							

どの勘定科目が、どの要素に該当し、増減・発生するのは、借方・貸方のいずれで処理すべきかが問題である。

<例> 次の取引の仕訳をせよ。

1. 借入金10,000円を現金で返済した。
2. 交際費3,000円を現金で支払った。
3. 利息8,000円を受取り、普通預金へ預け入れた。
4. 建物100,000円を取得し、現金で支払を行った。
5. 現金100,000円を元入れして営業を開始した。
6. 商品30,000円で仕入れ、代金は現金で支払った。
7. 原価30,000円の商品を40,000円で販売し、代金は現金で受け取った。
8. ボールペン500円を購入し、現金で支払った。
9. 商品50,000円で仕入れ、代金の内20,000円を現金で支払い、残額は掛とした。
10. 原価50,000円の商品を70,000円で販売し、代金の内40,000円は現金で受け取り、残額は掛とした。
11. 従業員の給料4,000円を現金で支払った。

<解答>

1.	(借入金)	10,000	(現金)	10,000	負債の減少・資産の減少
2.	(交際費)	3,000	(現金)	3,000	費用の発生・資産の減少
3.	(普通預金)	8,000	(受取利息)	8,000	資産の増加・収益の発生
4.	(建物)	100,000	(現金)	100,000	資産の増加・資産の減少
5.	(現金)	100,000	(資本金)	100,000	資産の増加・資本の増加
6.	(商品)	30,000	(現金)	30,000	資産の増加・資産の減少
7.	(現金)	40,000	(商品)	30,000	資産の増加・資産の減少
			(商品販売益)	10,000	+ 収益の発生
8.	(消耗品費)	500	(現金)	500	費用の発生・資産の減少
9.	(商品)	50,000	(現金)	20,000	資産の増加・資産の減少
			(買掛金)	30,000	+ 負債の増加
10.	(現金)	40,000	(商品)	50,000	資産の増加・資産の減少
	(売掛金)	30,000	(商品販売益)	20,000	+ 資産の増加・収益の発生
11.	(給料)	4,000	(現金)	4,000	費用の発生・資産の減少

2-3・仕訳帳

ここまで学習してきた仕訳は、実際には『仕訳帳』という帳簿に記録される。仕訳帳の様式は次の通りである。

仕 訳 帳				
日 付	摘 要	元 丁	借 方	貸 方
↑	↑	↑	}	

日付欄 ... 取引が発生した日付を記入する。月が同じなら日付だけを記入し、同じ日であれば「#」とする。

摘要欄 ... 左側に借方の勘定科目を、右側に貸方の勘定科目を記入する。勘定科目には()を付ける。
また、取引内容を簡単に記入する。これを『小書』と呼ぶ。次の取引と区別するため、摘要欄にのみ境界線を付す。

元丁欄 ... 元帳の中にある該当する勘定科目のページを記入する。

金額欄 ... 勘定科目に記入される金額を借方・貸方それぞれ記入する。

< 例 > 次の取引を仕訳帳に仕訳せよ。

6月 10日	商品10,000円を仕入れ、現金で支払った。
15日	友人に対する貸付金の受取利息800円を現金で受け取った。
20日	A銀行の借入金5,000円の返済と、これに対する利息350円の合計5,350円を現金で支払った。

< 解答 >

仕 訳 帳				
日 付	摘 要	元 丁	借 方	貸 方
6 10	(商 品)		10,000	
	(現 金) 商品を仕入れ現金で支払った			10,000
15	(現 金)		800	
	(受 取 利 息) 貸付金の利息を現金で受け取る			800
20	諸 口 (現 金)			5,350
	(借 入 金)		5,000	
	(支 払 利 息) A銀行への借入金の返済		350	

< 解説 >

6月20日の取引は借方の勘定科目が複数であるため回答に示す通り、借方の勘定科目の上に『諸口』と記入する。また、6月20日の次の取引はないため最終行に境界線を引く必要はない。

3.勘定口座への転記

仕訳は取引そのものを記録として残すために行なわれると同時に、帳簿に整理記入するための準備でもある。また、簿記の重要な役割の1つに取引という経済行為の分類・整理を行うという作業がある。仕訳はこの分類という作業にあたり、これから学習する『転記』は整理に該当する作業である。簿記では、取引が発生する都度、「仕訳・転記」という作業が繰り返し行なわれる。

3-1・転記の方法

仕訳に用いた勘定科目は、仕訳のための道具ではなく、実は転記のための受け皿として存在する。例えば、借方に現金として仕訳した場合は、現金という勘定科目の左側である借方に記入される。

<例> 6月18日に現金10,000円を銀行より借り入れた。

(借方) 現金 10,000	(貸方) 借入金 10,000
現金勘定	借入金勘定
10,000	10,000

借方で仕訳した現金勘定は、現金という勘定科目の借方へ記入される。上記の例に示した勘定はアルファベットのT型をしているためT(ティー)字勘定口座(T勘定)と呼ばれ、簿記学習において広く一般的に用いられている。

(借方)	現金勘定	(貸方)
資産の増加 現金の受入		資産の減少 現金による支払

各勘定口座には、左側・右側に転記が可能ないように貸借の区別がつけられている。

3-2・転記上の注意

仕訳を勘定口座に転記する場合は、次のルールがある。これを転記の3要素と呼ぶ。

転記の3要素 ~ 取引の日付・取引の相手勘定科目・取引金額

3-1を例に取り、具体的に勘定科目を示せば次のようになる。

現金勘定	借入金勘定
6/18 借入金 10,000	6/18 現金 10,000
↑ ↑ ↑	
日付 相手科目 金額	

各勘定口座への転記に際して相手勘定科目を記入するのは、勘定口座への転記を見て仕訳が推測できるようにしておくためである。

4. 総勘定元帳の締切

4-1・費用・収益勘定の締切

費用及び収益に属する勘定科目は、損益勘定へ振替える。



【 範 例 】

下記に示す資料により、費用収益に関する損益勘定への振替仕訳を示せ。

< 資 料 >

仕入勘定	売上勘定
50,000	80,000
給料勘定	受取利息勘定
10,000	1,500
通信費勘定	
2,500	

< 解 答 >

1. 費用勘定の振替

(損 益)	62,500	(仕 入)	50,000
		(給 料)	10,000
		(通 信 費)	2,500

2. 収益勘定の振替

(売 上)	80,000	(損 益)	81,500
(受取利息)	1,500		

< 解 説 >

損 益 勘 定					
12/31	仕 入	50,000	12/31	売 上	80,000
"	給 料	10,000	"	受取利息	1,500
"	通 信 費	5,000			

損益勘定では、当期純利益が計上される場合は、貸方の合計金額のほうが、借方の合計金額より多くなる。

なお、損益勘定は集合勘定であるため、相手勘定科目が複数であっても、勘定記入に際し諸口を使用しない。

4-2・損益勘定の締切

費用、収益勘定を振替えることによって、損益勘定で計上されることとなった当期純利益は、決算振替仕訳によって損益勘定から資本金勘定へ振替えられる。

損益勘定		資本金勘定	
費用勘定	収益勘定		残高
当期純利益			当期純利益

決算振替仕訳

当期純利益を損益勘定から資本金勘定へ振替えるための仕訳。

(損 益) × × × (資 本 金) × × ×

【 範 例 】

下記の損益勘定により、損益勘定を締切するための決算振替仕訳を示せ。

損 益 勘 定					
12/31	仕 入	50,000	12/31	売 上	80,000
"	給 料	10,000	"	受取利息	1,500
"	通 信 費	5,000			

< 解 答 >

(損 益) 19,000 (資 本 金) 19,000

< 解 説 >

損 益 勘 定					
12/31	仕 入	50,000	12/31	売 上	80,000
"	給 料	10,000	"	受取利息	1,500
"	通 信 費	5,000			
"	資 本 金	16,500			
		<u>81,500</u>			<u>81,500</u>

資 本 金 勘 定

	1/1	前期繰越	#####
	12/31	損 益	16,500

4-3・資産・負債・資本勘定の締切

英米式決算法では、資産・負債・資本に属する諸勘定に関しては貸借の差額を勘定口座の上で直接次期繰越・前期繰越として記入することにより締切手続きを行う。

【例】

現金勘定					
		15,000			3,000
		25,000	12/31	次期繰越	14,000
		#####			#####
1/1	前期繰越	14,000			

支払手形勘定					
12/31	次期繰越	30,000			
		90,000			90,000
			1/1	前期繰越	30,000

資本金勘定					
12/31	次期繰越	#####	1/1	前期繰越	#####
			12/31	損益	65,000
		#####			#####
			1/1	前期繰越	#####

英米式決算法では、決算振替仕訳が正しく行なわれ、正しく勘定を締切ることができたかどうかを確認するため、上記の資産・負債・資本に属する勘定の「残高」だけを集めて『繰越試算表』が作成される。貸借が一致すれば勘定の締切りが正しかったことが分かる。

繰越試算表
平成 年12月31日

借方	勘定科目	貸方
14,000	現金	
25,000	売掛金	
⋮	⋮	
	支払手形	3,000
	⋮	⋮
	資本金	265,000
××××	計	××××

4-4・仕訳帳の締切

期中取引・決算整理・決算振替と全ての処理が終了すると各勘定口座は締切られる。また、主要簿の仕訳帳もこれら全ての処理が終了すれば締切られることとなる。

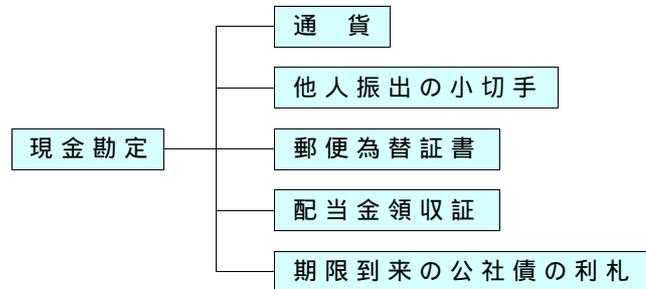
仕 訳 帳

日付	摘 要	元丁	借 方	貸 方
12 30	(商 品)	11	5,000	
	(現 金)	1		5,000
	商品を仕入れ現金で支払った			
	期中取引合計		650,000	650,000 ← 合計試算表の 合計額と一致
	(決算整理仕訳)			
12 31	諸 口 諸 口			
	(仕 入)	35	2,000	
	(繰越商品)	6	3,000	
	(繰越商品)	6		2,000
	(仕 入)	35		3,000
	棚卸商品に関する決算整理仕訳			
	合 計		655,000	655,000
	(決算振替仕訳)			
"	(損 益) 諸 口	50	75,000	
	(仕 入)	35		52,000
	(給 料)	36		18,000
	(通 信 費)	41		5,000
	費用勘定の損益勘定への振替			
"	諸 口 (損 益)	50		100,000
	(売 上)	45	86,000	
	(受取手数料)	48	14,000	
	収益勘定の損益勘定への振替			
"	(損 益)	50	25,000	
	(資 本 金)	20		25,000
	当期純利益の資本金勘定への振替			
			855,000	855,000

5.現金・預金取引

5-1.現金勘定

簿記では、現金として処理されるものには、通貨のほか、金融機関で即換金できるものは現金勘定で処理する。尚、これらのものを通貨代用証券と言う。



これらの処理上注意すべき点は、上記のものを受け取った際は借方現金勘定で処理し、その後これらを支払手段として譲渡した時に貸方現金勘定で処理しなければならないということである。

【範例】

次の取引を仕訳せよ。

1. 甲商店より売掛金50,000円の回収として同店振出しの小切手を受け取った。
2. 当社は、保険料70,000円の支払として、上記甲商店振出しの50,000円の小切手と現金20,000円を保険会社に支払った。
3. 当社が出資して株主となっているB株式会社から本日、配当金として10,000円の株式配当金領収証が送られてきた。

< 解答 >

1. (現金) 50,000 (売掛金) 50,000
2. (保険料) 70,000 (現金) 70,000
3. (現金) 10,000 (受取配当金) 10,000

< 解説 >

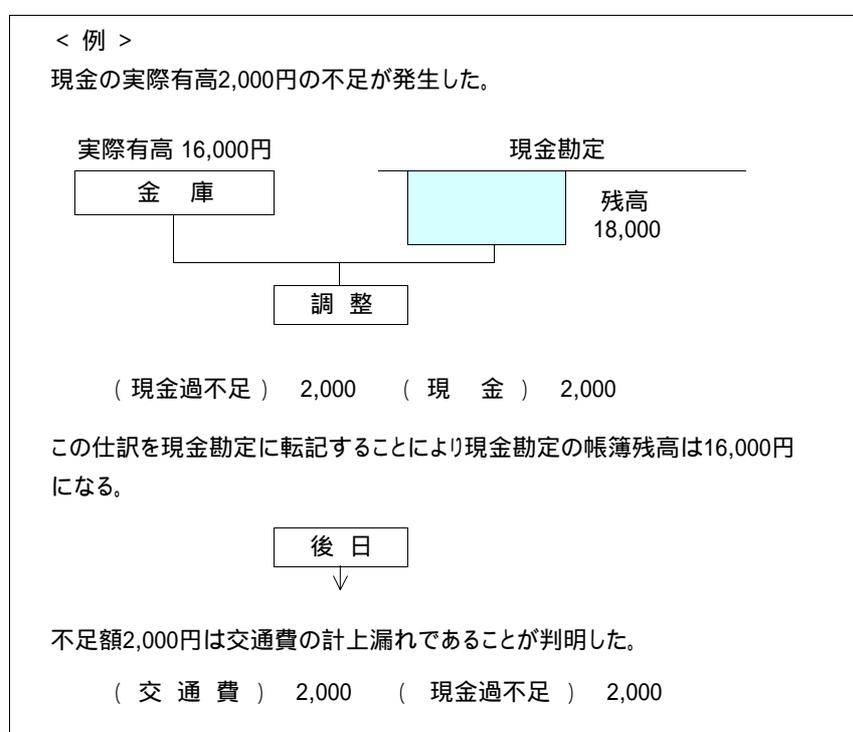
- 1、2の甲商店振出しの小切手は受入時に(借方)現金勘定で処理しているので、これを他社へ裏書きしたときは現金勘定のマイナスとして処理する。

5-2・現金過不足

現金の出し入れが頻繁に発生する場合、これらを随時正しく記帳することは困難である。従って、時には現金の出し入れの記録が漏れてしまうこともある。このような場合、現金の実際有高と、現金勘定の残高が異なる事態が発生する。このような場合、帳簿上の現金勘定を実際の有高に一致させるため帳簿記録を修正する。このとき用いられるのが、現金過不足勘定という中間勘定である。

状 況	調 整 の 仕 訳
実際有高 < 帳簿有高	(現金過不足) × × × (現 金) × × ×
実際有高 > 帳簿有高	(現 金) × × × (現金過不足) × × ×

この現金過不足勘定は、原因が判明するまでの仮勘定であるため、過不足の原因が判明次第該当する科目に振替える。



< 例 >

次の取引を仕訳せよ。

1. 現金の実際有高が58,000円であり、帳簿の現金勘定の残高が55,400円であった。
2. 上記の内、1,400円は受取手数料の計上漏れであることが判明した。しかし、残額については引続き調査中である。

< 解答 >

1. (現 金) 2,600 (現金過不足) 2,600
2. (現金過不足) 1,400 (受取手数料) 1,400

< 解説 >

1. 現金勘定の借方を2,600円増加させることにより、実際有高58,000円に一致させる。

帳簿残高 現金過不足分 実際有高
55,400円 + 2,600円 = 58,000円

2. 原因が判明した時点で、現金過不足勘定から該当する勘定科目に振替える。
また、まだ1,200円 (= 2,600円 - 1,400円) が原因不明であるが、判明するまではそのままの状態にしておく。尚、決算までに原因が判明しない場合には、雑益勘定へ振替える。

< 参考 >

(現金過不足) 1,200 (雑 益) 1,200

5-3・当座預金

営業の規模が大きくなれば、商品に関する入出金の頻度・金額は拡大していく。このような場合、現金と普通預金のみで受け払いをすることに限界が生ずる。

また、金額が大きくなればその受け払いに危険性も伴う。よって、事業がある程度の規模になると銀行に当座預金口座を開設するのが一般的である。

当座預金口座は、普通預金口座と違い、銀行と特別な契約(当座借越契約)を結ぶことにより、預金残高がマイナスとなっても引出すことが可能な口座である。

この当座預金口座は、支払手段として、小切手という証券が用いられる。

< 例 >

次の取引を仕訳せよ。

1. 当店は、A銀行に当座預金口座を開設し、現金100万円を預け入れた。
2. 仕入先へ買掛金の代金の支払のため200,000円の小切手を振出した。
3. 得意先から売掛金300,000円を小切手で回収し、ただちにこの小切手を当座預金勘定へ預け入れた。

< 解答 >

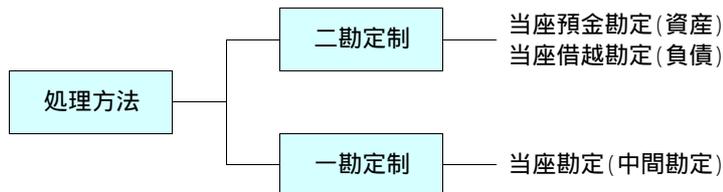
- | | | | |
|-----------|-----------|--------|-----------|
| 1. (当座預金) | 1,000,000 | (現金) | 1,000,000 |
| 2. (買掛金) | 200,000 | (当座預金) | 200,000 |
| 3. (当座預金) | 300,000 | (売掛金) | 300,000 |

< 解説 >

3. 他人振出しの小切手を受け入れたときは、本来現金勘定で処理すべきであるが、「ただちに当座預金口座へ預け入れた」という表現があるときは現金勘定とせず当座預金勘定を用いる。

5-4・当座借越勘定

当座預金の大きな特徴は、引出しに小切手を用いることである。通常、この支払にあたり各企業ごと毎月10日、20日、月末など支払日が定められている。従って、この支払日に振出した小切手の総額が当座預金残高になければ、振出した小切手は不渡りになってしまう。これを防ぐため当座預金口座の開設時に、預金残高がマイナスとなっても小切手を振出することができるような契約である『当座借越契約』を銀行との間で締結する。これにより、一定額までならば自動的に借入をすることが可能となる。この自動借入部分を処理する方法は2つある。



中間勘定とは、資産・負債・資本・収益・費用のいずれの要素ももたない勘定科目である。前述の現金過不足勘定がこの中間勘定に該当する。

< 例 >

次の取引を一勘定制・二勘定制で仕訳せよ。

1. 当店は、仕入先Aの買掛金200,000円を支払うために小切手を振出した。尚、本日の当座預金残高は80,000円である。また、当店では銀行との間に100万円の当座借越契約を締結している。
2. 得意先から売掛金150,000円が当座預金口座へ振り込まれた。

< 解答 >

二勘定制

1. (買掛金)	200,000	(当座預金)	80,000
		(当座借越)	120,000
2. (当座借越)	120,000	(売掛金)	150,000
(当座預金)	30,000		

一勘定制

1. (買掛金)	200,000	(当座)	200,000
2. (当座)	150,000	(売掛金)	150,000

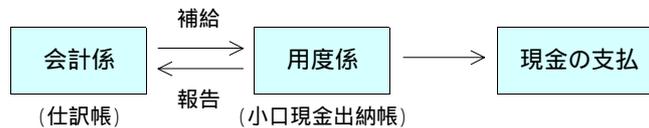
< 解説 >

二勘定制において、当座借越が発生したあとで当座預金に入金があった場合まず、当座借越勘定を精算する。

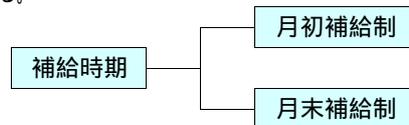
5-5・小口現金勘定

現金の管理については常に煩雑さと危険性を伴い、その記帳が正確に行われなければ取引の全てを正しく記帳することが出来ない。

そこで、現金の管理を経理の仕事から独立させ、別の担当者に現金の管理をさせようというのが小口現金制度である。この小口現金の管理を行う者を用度係といい、この用度係は小口現金出納帳という補助簿を記入しながら現金の管理をする。



用度係が小口現金の支払い明細を会計係に報告し、その報告額と同額の小さ切手を補給する。補給時期には、以下の二つがある。



この小口現金制度の大きな特徴は、会計係が用度係に一定額を渡しておき、支払った額と同額を補給する点である。これを定額資金前渡制度という。

$$\boxed{\text{小口現金の実際残高}} + \boxed{\text{領収証の合計額}} = \boxed{\text{一定額}}$$

< 例 >

次の取引を一勘定制・二勘定制で仕訳せよ。

1. 小口現金として小切手100,000円を振出し、用度係に渡した。
2. 用度係は、営業より交通費5,000円の報告を受け小口現金から支払った。
3. 会計係は、用度係より今月分の小口現金の支払総額が87,500円であるとの報告を受け、ただちに同額の小さ切手を振出した。
交通費；62,000円、通信費；10,500円、交際費；12,000円、雑費；3,000

< 解答 >

1.	(小口現金)	100,000	(当座預金)	100,000
2.	仕訳なし			
3.	(旅費交通費)	62,000	(小口現金)	87,500
	(通信費)	10,500		
	(交際費)	12,000		
	(雑費)	3,000		
	(小口現金)	87,500	(当座預金)	87,500

< 解説 >

2. 用度係は多くの現金の支払を担当するが、これらは全て小口現金出納帳という補助簿に記入されるだけで、仕訳は3.の報告時に会計係が一括して行う。
3. 月末に用度係から報告の会った時点で会計係によって一括して記帳処理される。

6. 商品売買

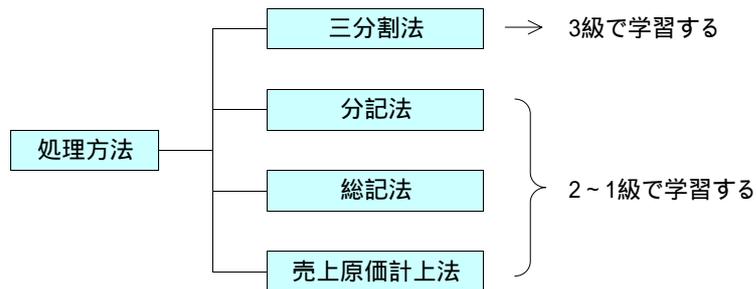
6-1・概要

企業は、商品売買を継続的にすることにより利益を獲得する。従って商品売買に関する記帳は、簿記学習において非常に重要な役割を持っている。

商品売買という場合の『商品』には、その業種によって様々なものが考えられる。そこで商品とは「企業が販売目的のために所有する財産」と位置付けることができ、会計上はそれを「棚卸資産」という。

業 種	商品(棚卸資産)の種類
不動産業	マンション・一戸建
宝石業	指輪・イヤリング
鮮魚業	生魚
物品販売業	食料品・文房具
製造業	自社生産の製品

商業簿記では、どのような商品の販売についても具体的な処理方法は同じであり、不動産でもコップ1つでも同じ会計処理をする。また、会計処理にはいくつかの方法があり、一般的に三分割法(三分法)という会計処理が行なわれる。

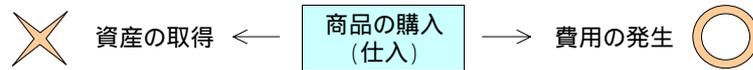


三分割法以外の処理方法は、3級に際しては特に必要のない知識である。

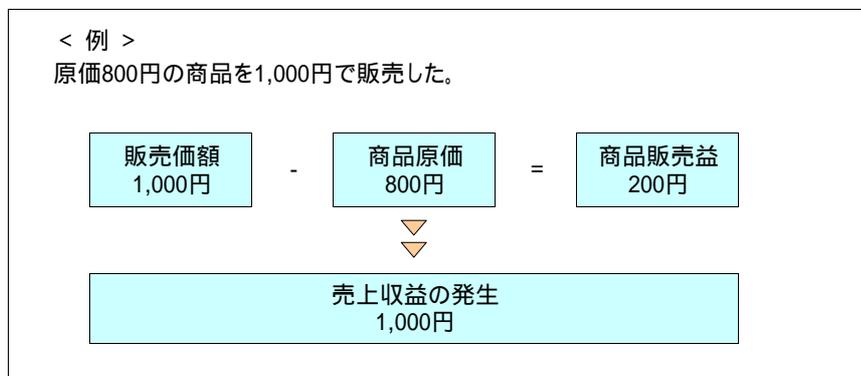
6-2・三分割法の会計処理方法

会計上、商品を「棚卸資産」と述べたが、商品販売を三分割法で処理する場合は、商品を資産(財産)とは考えない。つまり商品の購入(仕入)は、商品を販売(売上)する前段階で費用が発生したものである。

商品とは「販売目的のために所有する財産」と位置付けることができ、会計上はそれを「棚卸資産」という。



また、三分割法では、商品の販売を、原価いくらのもを、いくらで販売し、その差額を利益として計上するという考え方はしない。すなわち、商品が販売されたときにその売上額全体を収益と考えるのである。



実務上、商品の個々の原価は簡単に判明しないケースが多い。例えば、一戸建ての不動産や高価な宝石であればその原価は判明するが、数多くの商品を扱うスーパーなどでは個々の商品の原価を販売するたびに一つ一つ把握することは不可能に近い。そこで、収益の総額だけを原価を無視して計上する。これが三分割法である。

< 例 >

次の取引を仕訳せよ。

- 仕入先A社より原価10,000円の商品を掛で仕入れた。
- 上記商品のうち2,000円は、品質不良であるため翌日A社へ返品することし、代金は掛と相殺することとした。
- 仕入先A社から仕入れた商品原価3,000円に相当する商品を得意先B社に5,000円で販売し、代金は後日受取ることとした。

< 解答 >

1. (仕 入)	10,000	(買 掛 金)	10,000
2. (買 掛 金)	2,000	(仕 入)	2,000
3. (売 掛 金)	5,000	(売 上)	5,000

< 解説 >

商品売買を三分割法で処理する場合には、その全てを仕入勘定、売上勘定で処理すればよい。また、「仕入」・「売上」に関する返品や値引が発生した場合には、勘定科目を貸借逆に用いて相殺仕訳を行う。

仕入勘定		売上勘定	
1.買掛金10,000	2.買掛金2,000		3.売掛金5,000

< 研究 >

今まで学習してきた商品売買の処理方法を「分記法」という。これは、仕入れた商品を資産(財産)と考え、仕入時には資産の増加、販売時には所有する資産の一部減少して販売価額との差額が利益(収益)になる考え方である。上記<例>の分記法による仕訳を参考までに紹介する。

1. (商 品)	10,000	(買 掛 金)	10,000
-資産勘定プラス-			
2. (買 掛 金)	2,000	(商 品)	2,000
		-資産勘定マイナス-	
3. (売 掛 金)	5,000	(商 品)	3,000
		-資産勘定マイナス-	
		(商 品 販 売 益)	2,000
		-収益勘定マイナス-	

この考え方によると商品勘定は常に資産(財産)勘定として位置付けられることになり、その残高は現時点における財産の保有高を示すこととなる。

商品勘定	
1.買掛金10,000	2.買掛金2,000
	3.売掛金3,000
	} 残高5,000

6-3・引取運賃

実際、商品の仕入れに際し様々な費用の発生が考えられる。その代表的なものとして、仕入商品に係る引取運賃がある。これは、商品の売買に伴い、売主より買主に商品を運搬する場合に係る運賃のことである。簿記上、この引取運賃に該当するものは「支払運賃」として処理せず、仕入れた商品の原価に算入することとなる。

商品の原価は仕入れた金額であるが、これは「販売できる状態までに要した金額」を意味する。従って、引取運賃も仕入れた商品の取得価額の一部を構成するものとして扱い、仕入勘定に含めることとなる。

< 例 >

商品10,000円を掛により仕入れたが、それに伴い運送会社に500円の運賃を別途現金で支払った。

< 解答 >

(仕 入)	10,500	(買 掛 金)	10,000
		(現 金)	500

棚卸資産原価の公式

重要公式

商品原価

=

購入代価

+

附随費用

6-4・発送費

売主が商品の発送に際し、その運賃を支払をしたとき、これを負担するのが売主によるか、買主によるかで会計処理が異なる。

< 売主側の処理 >



< 例 >

次の取引を仕訳せよ。

1. A商店は商店30,000円を掛により販売した。また、商品発送に際して運賃2,000円を現金で支払った。A商店では発送運賃を全て負担している。
2. B商店は商品20,000円をC商店へ掛で販売した。発送に際して運賃1,000円を現金で支払った。これはC商店が負担することとなっている。

< 解答 >

1. (売 掛 金)	30,000	(売 上)	30,000
(支 払 運 賃)	2,000	(現 金)	2,000
2. B 商店			
(売 掛 金)	21,000	(売 上)	20,000
- 売 主 -		(現 金)	1,000
C 商店			
(仕 入)	21,000	(買 掛 金)	21,000
- 買 主 -			

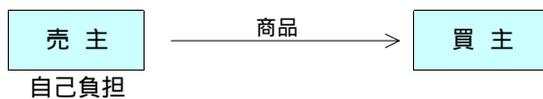
< 解説 >

2.の支払運賃1,000円を売主が借方(売掛金)20,000円と(立替金)1,000円の2つの科目により処理することも考えられる。ただこの方法によってもC商店からの回収は売掛金・立替金を同時に回収されるため、(売掛金)21,000円と一括して処理したほうがいい。

2. B 商店			
(売 掛 金)	20,000	(売 上)	20,000
(立 替 金)	1,000	(現 金)	1,000

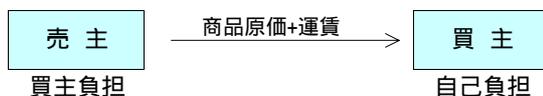
まとめ

(1) 売主が自己負担した場合



(支払運賃勘定)

(2) 買主が自己負担した場合



(売掛金勘定へ加算)

(仕入勘定へ加算)

7. 決算

7-1・決算とは

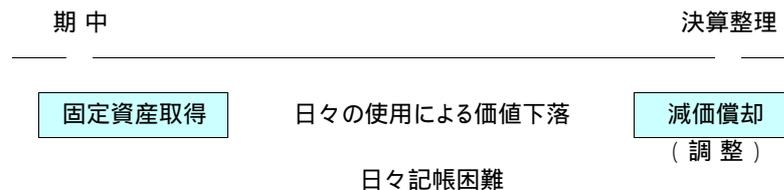
決算とは、企業の一会計期間(1年間)の経営活動をまとめる作業をいう。



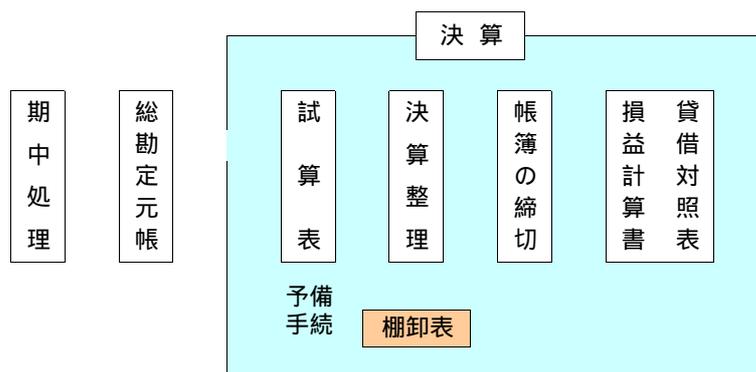
決算は、企業の経営成績や財政状態を把握する目的で行なわれるが、これは総勘定元帳を締切ることによって行なわれる。

7-2・決算整理とは何か

複式簿記の原則に従って期中処理により作成された仕訳帳や総勘定元帳は、必ずしも完全なものとはいえない。これは、期中処理上やむを得ず不完全な処理をしなくてはならないものも存在するからである。



そこで、正しい損益計算書と貸借対照表を作成するため、仕訳により帳簿に一部修正を加えることとなる。この手続きを『決算整理』と呼び、この仕訳を『決算整理仕訳』と呼ぶ。



決算整理は、あらかじめ決算整理事項を列挙した『棚卸表』を作成し、これに基づき決算整理を行う。

7-3・棚卸表の作成

3級の範囲において、各勘定科目の内決算整理が必要なものは以下の勘定科目である。

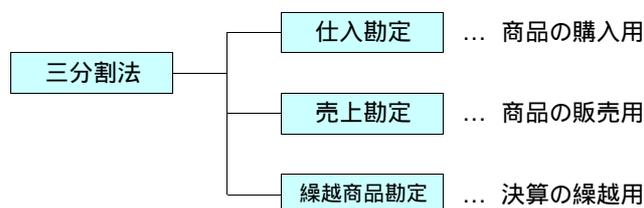
- | | |
|----------------|------------------|
| (1) 現金・現金過不足勘定 | (5) 固定資産勘定 |
| (2) 受取手形・売掛金勘定 | (6) 引出金勘定 |
| (3) 有価証券勘定 | (7) 費用・収益に関する諸勘定 |
| (4) 繰越商品・仕入勘定 | |

棚 卸 表
平成 年12月31日

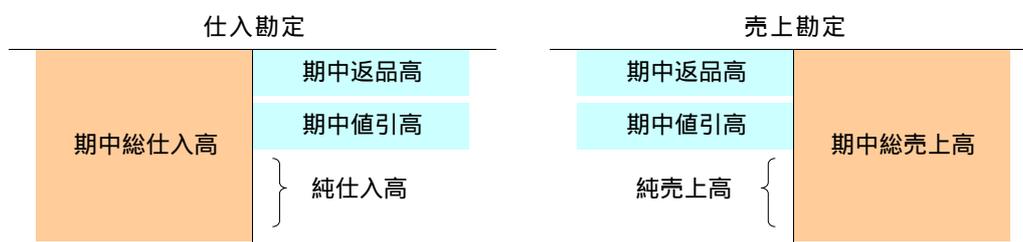
摘 要	内訳金額	金 額
商 品		
A品 100個 @2,500円	250,000	
B品 150個 @3,000円	450,000	700,000
受取手形	300,000	
貸倒引当分	20,000	280,000
売 掛 金	500,000	
貸倒引当分	30,000	470,000
有価証券		
甲社株式 100株 @6,500円	650,000	
評価損	10,000	640,000
備 品		
取得価額	350,000	
減価償却累計額	70,000	
当期減価償却額	10,000	270,000
合 計		2,360,000

7-4・商品売買の三分割法

商品売買を三分割法で処理すると、3つの勘定科目は次のように使用する。



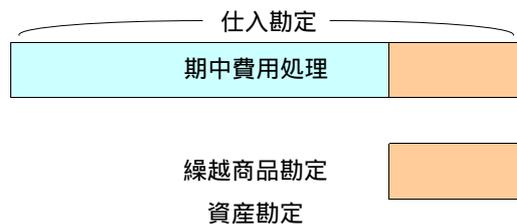
期中においては、仕入・売上勘定のみが使用される。



期中において、繰越商品勘定を用いて処理する取引が発生することはない。従って、前期から繰越された繰越商品勘定は、期首から期末まで全く変化は生じない。

7-5・三分割法の決算整理

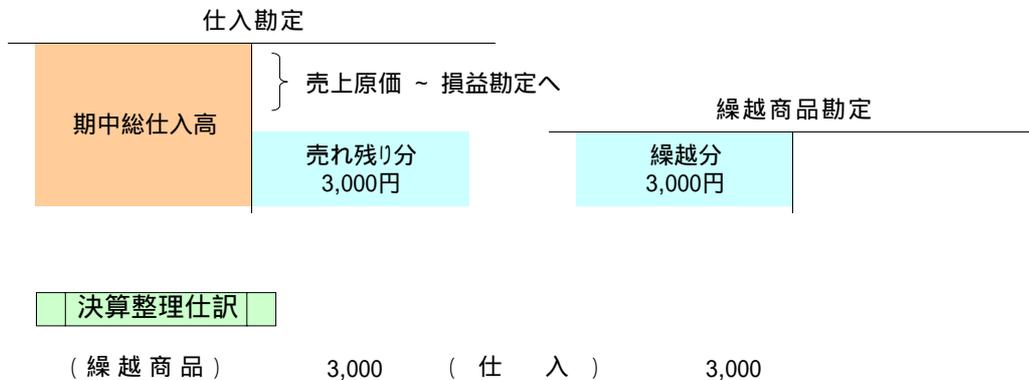
三分割法を採用する場合に、期末において売れ残った商品を費用勘定である仕入勘定にそのまま残しておくことはできない。そこで、売れ残り分は費用勘定である仕入勘定から資産勘定の繰越商品勘定へ振替える。



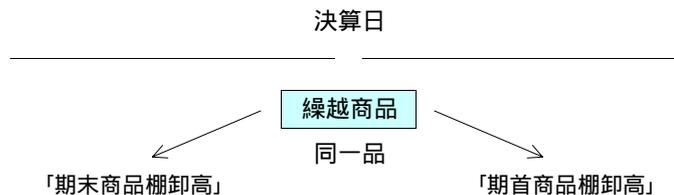
仕入勘定の金額は、最終的に決算振替仕訳により損益勘定に振替えられることになる。そこで期末において売れ残った分を資産勘定である繰越商品勘定に振替えることにより、売れた分のみを仕入勘定に残し、それを当期の売上に対する売上原価として損益勘定に振替えることになる。

< 例 >

期中仕入れた10,000円の商品の内、3,000円は期末において売れ残った。



期末における売れ残り商品を**期末商品棚卸高**と呼び、翌期首には、**期首商品棚卸高**になる。



商品が販売された際の原価を売上原価と呼ぶが、これは商品有高帳により販売の都度把握することができる。ただし、三分割法を採用する場合には、販売の都度この売上原価を会計処理である仕訳上に反映するはしない。この売上原価は、決算整理を通じて仕入勘定の上で算出される。

棚卸商品は、期末に売れ残ったものがそのまま翌期首の棚卸商品となるため、次の算式により各会計期間の売上原価が算出される。

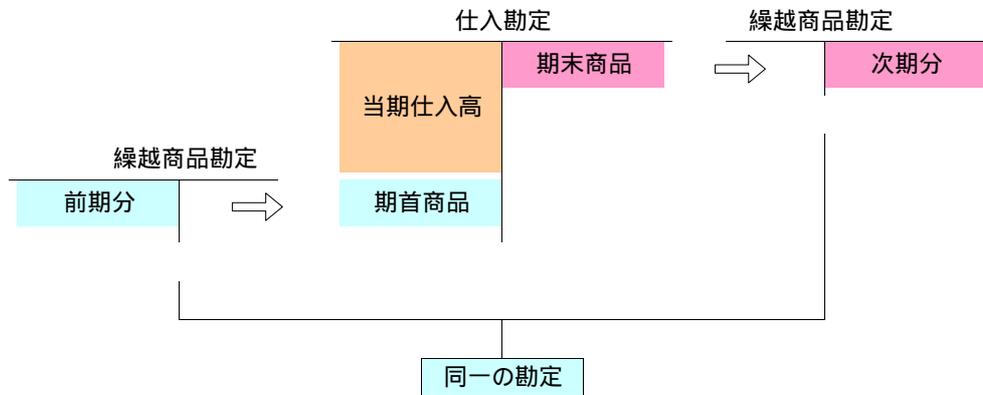
売上原価の公式

重要公式

$$\text{売上原価} = \text{期首商品棚卸高} + \text{当期商品仕入高} - \text{期末商品棚卸高}$$

7-6・仕入勘定による売上原価の算出

決算において、仕入勘定と繰越商品勘定の2つの勘定科目を用いて当期の売上原価を算出する。



決算整理仕訳を理解するためには、繰越商品勘定(資産)の借方と貸方にどのようなものが記入されているかを理解するのが重要なポイントである。



7-7・三分割法の決算整理仕訳

しい		くり		
(仕入)	xxx	(繰越商品)	xxx	... 期首商品分
くり		しい		
(繰越商品)	xxx	(仕入)	xxx	... 期末商品分

この仕訳は類似する2組の仕訳であり、2つの勘定科目しか使用しないため大変まぎらわしい。そこで下記の語呂でこの仕訳を暗記しておくとい。

しい くり くり しい (仕, 繰, 仕, 繰)

< 例 >

下記に示す資料により、仕入勘定で売上原価を算出する決算整理仕訳を示せ。なお、期末商品棚卸高は3,000円である。

繰越商品勘定		仕入勘定	
前期繰越 2,000		当期仕入 19,000	

< 解答 >

1. 前期繰越の商品2,000円を、繰越商品勘定から仕入勘定へ振替える。

(仕 入) 2,000 (繰 越 商 品) 2,000 ... A

2. 期末に売れ残った商品3,000円を仕入勘定から繰越商品勘定へ振替える。

(繰 越 商 品) 3,000 (仕 入) 3,000 ... B

< 解説 >

仕訳をそれぞれ転記すると次のようになる。

繰越商品勘定			
前期繰越	2,000	A 仕入	2,000
B 仕入	3,000	} 次期繰越	

仕入勘定			
当期仕入高	19,000	B繰越商品	3,000
A繰越商品	2,000	} 売上原価 18,000	

< 当期中の売上原価 >

売上原価 期首商品 当期仕入 期末商品
 $18,000 = 2,000 + 19,000 - 3,000$